

中学校国語科 実践事例Ⅰ ～「深い学び」の実現に向けて～

単元名
「論理の展開を意識して書こう」
(国語3 光村図書)
第3学年 B書くこと

内容のまとめり
第3学年
〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

1 単元の目標

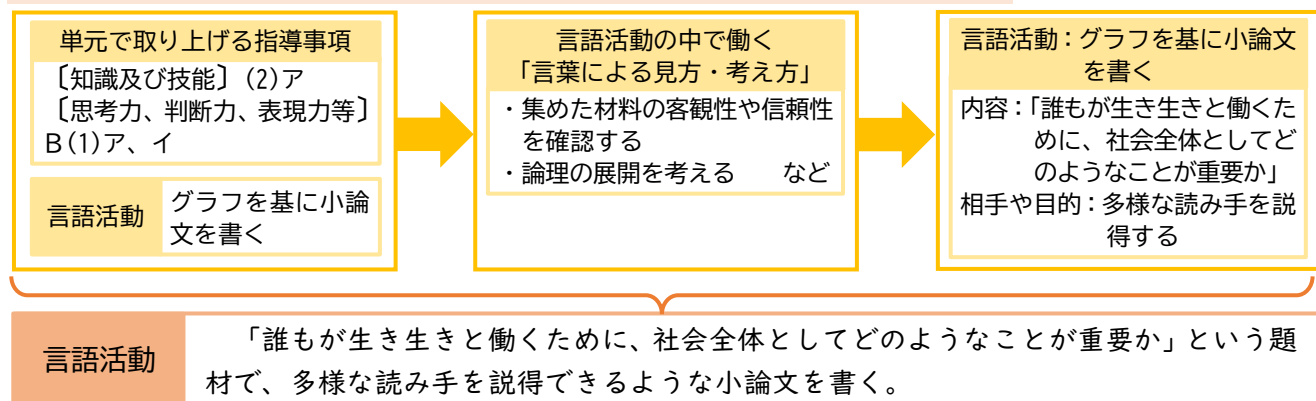
- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (2)ア
- (2) 目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ア
- (3) 多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 「言葉による見方・考え方」を鍵に、「深い学び」につなげるために

- (1) 本単元における「深い学び」を実現している姿とは
「多様な読み手を説得できるような小論文を書く」という言語活動に取り組む中で、集めた材料の客観性や信頼性を確認したり、論理の展開を考えて文章の構成を工夫したりしている姿のこと。

(2) 授業の実際

ポイント① 「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を設定する。



ポイント② 単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働かせることができるようにする。

【指導の計画 (全5時間)】

時	主な学習活動
1	○小論文について知る。 ○単元の目標や計画をつかみ、単元全体の学習の見通しをもつ。
2	○小論文で書く意見を決め、【資料】の図表の中から適切な根拠を選ぶ。
3	○多様な読み手を説得できるように論理の展開を考え、文章の構成を考える。
4	○小論文の下書きを書き、自己評価をする。 ○グループで下書きを読み合い、相互に評価する。 ○読み手からの指摘や他の生徒の書いた下書きを読んで気付いたことを基に、推敲し、清書する。
5	○単元の学習で学んだことを確認し、新たな題材で小論文を書く。 ○単元全体の学習の振り返りをする。

ポイント②の具体を、第1時、第2時、第5時を取り上げて、説明します。

第1時 単元の見通しをもつ場面

単元の見通しをもつことができるように説明する

単元で育成を目指す資質・能力や言語活動について説明することで、生徒は、どのようにして小論文に説得力をもたせるのかを考えながら言語活動に取り組むことができるようになります。

生徒は小論文を書くのは初めてです。そこで、意見文と小論文とを比較し、その違いを考えることで、小論文の特徴を捉えることができますようにします。生徒は、小論文の特徴を捉えることで、単元の見通しをより明確にもつことができますようになります。

第2時 小論文で書く意見を決め、適切な根拠を選ぶ場面

言語活動の中で、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせるのか意識できるような発問を行う

「【資料】の図表から読み取った事実」やその事実を根拠としてどのように「意見」とつなげるのかを整理し、吟味することで、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるようになります。また、生徒の学習活動を見取り、適宜、「言葉による見方・考え方」を意識できるような声掛けを行うようにします。

〈書く材料をワークシートに整理する〉



ワークシートに、選んだ「【資料】の図表から読み取った事実」やその事実をどのように「意見」とつなげるのか整理しましょう。

※傍線部…「論理の展開」に必要なこと

「言葉による見方・考え方」を意識できるようにする発問

〈ワークシートに整理した内容について吟味する際のポイントを明確にする〉



意見と根拠の関係の示し方について、多様な読み手を説得することができるものになっているか確認をします。どのようなことに注目して確認すればよいですか。

※二重線部…言語活動の相手や目的

「言葉による見方・考え方」を意識できるようにする発問

「多様な読み手を説得できるような小論文を書く」という目的で、論理の展開に注意して小論文を書いているので、多様な読み手に納得してもらえるような、筋道の通った考えの進め方になっているかを確認する必要があります。



そうですね。論理の展開に注目する必要があります。「【資料】から読み取った事実」を基に、どのように「意見」が導き出されたのかを確かめ、客観性のある筋道の通った考えの進め方になっているか吟味しましょう。

〈ワークシートに整理した内容についてグループで吟味する〉

意見	意見と事実の関係を示す部分	【資料】の図表から読み取った事実
取られるようになり、コミュニケーションが大切だ。	コミュニケーションが大切だ。	5年間の調査から、R4年とR5年を比べると、職場での円滑なコミュニケーションがとれるようになると、ストレスの軽減につながる。また、コミュニケーションがとれることで、ストレスが軽減され、仕事に集中できる。さらに、コミュニケーションがとれることで、職場の雰囲気もよくなり、仕事も楽しくなる。

資料3 ワークシート

【資料】のグラフを基に、「職場で、円滑なコミュニケーションが取れるようになることが大切です」という意見につなげたいんだけど、筋道は通っているかな（資料3）。



「仕事にはストレスはつきものなので、うまく向き合っていく必要がある」は「職場で、円滑なコミュニケーションが取れるようになることが大切」とつながるかな。



どうやら、論理の展開に飛躍があるようですね。どのようなことを説明すれば、客観性のある筋道の通った考えの進め方になるか、考えてみましょう。

※傍線部…「論理の展開」に必要なこと

「言葉による見方・考え方」を意識できるようにする声掛け

なぜ「職場で、円滑なコミュニケーションが取れるようになることが大切」と言えるのか、その理由を説明したらよいと思うよ。



なるほど。「コミュニケーションを取ることで、ストレスの軽減につながる」という研究結果があるんだ。それと、普段からコミュニケーションを取ることで、相談しやすくなって、ストレスが生まれにくくなると思ったんだよね。



それが、「意見と事実の関係を示す部分」に書いてあると、客観性のある筋道の通った考えの進め方になって、説得力が高まるね。



筋道の通った考えの進め方についてヒントを得ることができましたね。ほかの人の意見と根拠の関係の示し方についても、同様に確認していきましょう。

第5時 「言葉による見方・考え方」を、再度働かせる場面

「言葉による見方・考え方」を働かせる場面を繰り返すような単元構成にする

本単元では、単元の終末に単元で学習した言語活動と同様の課題に取り組む場面を設定し、その上で単元全体の学習を振り返ることで、言葉への自覚をより高めることができるようになります。

〈単元の学習で学んだことを確認し、新たな題材で小論文を書く〉



単元で学習したこと（資料4）を生かして、新たに「誰もが安心してSNSを利用するために、社会全体としてどのようなことが重要か」という題材で小論文を書きましょう。

○単元で学習したこと

○論理の展開

- 根拠は、確かな事実に基づいたものにする
- 意見と事実の関係を適切に示し、客観性のある筋道の通った考えの進め方にする

○表現

- 意見が分かりやすく伝わる文章になるように表現の仕方を考えている

資料4 単元で学習したこと



事実からどのように意見が導き出されたのかが十分に説明して、説得力のある小論文にしよう。

学習した内容を活用することで、学習したことについて、より深く理解する



〈単元全体の学習を振り返る〉



2回目の小論文は、単元で学習したことを生かして書きましたね。それでは、3つの視点で、単元全体の学習を振り返りましょう（資料5、資料6）。

【振り返りの視点】

- ・単元の目標を達成するために頑張ったこと
- ・単元で工夫しようとしたが、十分ではなかったこと
- ・今回学んだことを、これからどのように生かしていくか

資料5 振り返りの視点



根拠とする事実と意見との関係に注目するなど、論理の展開を意識して小論文を書くことができた。今後、自分が話したり書いたり、表現するときに気を付けたい。また、スピーチなどを聞いたり、説明的な文章を読んだりするときも、論理の展開に飛躍がないか十分吟味するようにしたい。

学習したことについて文章で書くことで、言語活動の中で働かせた「言葉による見方・考え方」について、再度意識し、ほかの単元で生かそうとするなど、言葉への自覚を高めている

資料6 振り返りの例

※ハイライト…働かせた「言葉による見方・考え方」

「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を設定し、単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働かせることができるようにすることが大切です。

単元を通じた学習の中で、生徒が繰り返し「言葉による見方・考え方」を働かせることができるようにすることが、言葉への自覚を高めることになり、「深い学び」の実現につながります。